

今日の説教のポイント<エフェソの信徒への手紙4章7～16節>

「信仰と教会の関係はこういうものだったのか」と教えられる箇所！

①「しかし」(7節)に注目。6節までとの関係は？

7節から「私たち一人一人に与えられる賜物」について語られています。注目はその始まりが「しかし」であることです。それは、6節までは、私たちは神様によって教会に招かれたこと、それも「一つ」であることが強調された教会に招かれたことを語っていたからです。私たちに与えられる賜物はこの教会の中で考えなければならないものなのです。

②「聖なる者たち」はどんな人？ 「奉仕に適した者」。

「聖なる者たち(使徒、預言者、福音宣教者、牧者、教師)」は「奉仕に適した者たち」だと言われています(11-12)。イエス様が低い所に降りて来られたことが語られるのはこのためです(8-10)。私たち全ての者がイエス様を模範として目指すべき姿がここに 있습니다。そして、それがなされて「造り上げられてゆく」(12,16)のが教会なのだ、とパウロは力強く語るのです(12-16)。しかし教会だけでもないのです。

③「造り上げられる」は建築用語。 私たちの成長とは何？ どこで？

この「造り上げられる」と訳された元のギリシア語は建築用語であり、パウロはここで教会を考えると同時に、私たち一人一人の成長のことも考えています。「キリストの体を造り上げてゆき、ついには、私たちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです」(12-13)。信仰にとって教会が大事な理由がここに示されています！

④仕えることこそ価値ありとされる世界の開始！ それが教会！

この世では人の上に立つことが目指され、それが成長した証しです。しかし、そこで人々は疲れ果てています。教会は違うのです！ 私たちが招かれた主の教会では、様々な種類のある「仕えること」が一番尊いとされるのです！ 主に倣い、神と人に仕えて生きればよい、それで回復し、成長してゆける教会が与えられていることに感謝しましょう！